

学校法人 東京滋慶学園 埼玉福祉保育医療専門学校 学校関係者評価委員会 評価結果および改善方針

【2023年6月21日実施】

2023年度自己点検自己評価(2022年4月1日～2023年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	現状の取組状況	課 題	今後の改善方針	委員評価	学校関係者評価委員の御意見
		優れている:3 適切:2 改善が必要:1				優れている:3 適切:2 改善が必要:1	
1 教育 理念・ 目的・ 育成 人材 像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	3	教育理念(建学の理念)養成目的、教育目標を文書として明記している。 学園の理念は普遍のものであるが、時代や環境の変化に合わせて学科のイノベーションを図っている。	特になし	特になし	3.0	理念の下、高い意識で人材育成に取り組んでいる。
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	3	教育課程編成委員会や実習指導者懇談会、実習巡回時のヒアリング等を通じて必要な人材像、カリキュラムを構築している。 東京都介護福祉士会、埼玉県介護福祉士会、埼玉県社会福祉士会、埼玉県老人福祉協議会、さいたま市社会福祉協議会、さいたま市私立保育園協会等と連携している。	2022年度も新型コロナウイルス感染症対策の為、縮小や自粛、また、オンラインでの実施となった。	特になし		
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	3	LT2教育システム、MMPプログラムなど独自のカリキュラムに基づいた現場力教育を行っている。	特になし	特になし		
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	3	事業計画は5か年で計画しており、また周知するための研修や会議等システムが存在する。	特になし	特になし		
2 学校 運営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	3	事業計画を5か年で作成、周知するための研修、会議がシステムとして運用している。 浸透度の確認としては、学園のパーソナルアンケートやONOMOミーティングなどがある。	特になし	特になし	3.0	健全な組織運営を推進している。 学生がこども、教職員を職員に置き換えると現場と同じ課題を感じた。評価制度等、参考になった。引き続きよろしく願い致します。
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	3	チェック項目は全て事業計画に定めている。見直しは四半期ごと運営会議で行っている。	特になし	特になし		
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	3	理事会は年3回開催され、議事録も作成している。寄付行為も適宜変更している。	特になし	特になし		
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	3	組織図、職務分掌、会議日程は全て事業計画に記載して共有している。また就業規則も定められ閲覧できるようになっている。	特になし	特になし		
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	3	学園本部による人材採用、賃金規程が定められている。昇任、昇格も目標管理制度に基づき業務を点数化しシステムとして機能させている。 新人事制度段階的な運用開始。人材活用プラットフォームHRMOSの導入し、目標管理制度の可視化を推進した。	特になし	特になし		
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	3	意思決定システム、責任者も事業計画に記載されている。	特になし	特になし		
	2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	3	AS400システムで広報～在学中～卒業後まで一貫した情報管理を行っている。また、近年では「業務システム」に移行しながら、利便性を高めている。 iPadによる出席登録を行っており、担任は学生の出欠情報を机上のPCで確認できるようになっている。 5月をデータプライバシー月と指定して、各PCのデータの適正化、不必要なデータ削除を実施している。 個人情報の取扱いについては日本プライバシー協会の研修を全教職員が受講し、修了すると共に定期的な更新講習を行っている。	人為的なミスを減少させることが今後の課題である。 システムからのデータ活用について、一層有用な活用方法を検討していく必要がある。併せて個人情報保護についても引き続きしっかりと行う必要がある。 また学生情報についての記録のペーパーレス化と一元化を推進していくことも必要である。	講師への個別対応を実施する。 2019年度より広報、就職に加え、教育でも「業務システム」を使用し、日々の学生の情報を一元管理していく。 またグループウェア「サイボウズGaroon(ガルーン)」を導入し、情報の共有、スケジュール管理、会議・研修資料の送受信等をネットワーク上で行うとともに、稟議や物品購入などの承認業務も電子化し、業務効率を上げている。		

3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3	教育課程編成委員会の規定を定め、それに基づき実施している。	特になし	特になし	3.0	現状に満足することなく、去らなる髪を目指している。  エンゼルキッズをはじめ、それぞれの学科での取り組みは地域の方と共に作り上げられていると感じた。
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	3	教育指導要領(学生便覧)に全て記載している。資格取得に向けては通常授業、通常授業外でも対策授業を実施している。国家試験対策センターでデータの分析、対策研修、教育分科会を実施している。	特になし	特になし		
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3	教育課程編成委員会の規定を設け、学科ごとに年2回開催し、カリキュラム作成に活かしている。  講義・演習・実習は教育指導要領に記載し学生に説明している。シラバス、コマシラバスを全ての授業で導入し、具体的な到達目標を示している。また、その到達具合を図るための小テストを毎授業で実施している。  学園グループの福祉教育分科会にて他校の成功事例を学び教育内容、方法、授業計画等の改善に活かしている。指定規則に沿って、授業内容を講義・演習に分け、内容にて工夫している。  学科ごとのシラバスと毎回の授業の内容を示すコマシラバスをTeamsへの掲載はほぼできている。	カリキュラム改定の根拠やプロセスを明確化するとともに、その効果をどのように図るかを明確にする必要がある。	教務部長を中心に各学科で検討を進め、記録を残す。		
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	3	教育課程編成委員会のみならず、実習指導者懇談会、OBOG就職相談会等、業界と連携しての行事、実習巡回を通じて業界や卒業生の意見を積極的に取り入れている。	特になし	特になし		
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか	3	キャリア教育ロードマップを作成し、授業や行事等体系立てた教育を実践している。担任授業・ホームルームを通じて、専門科目以外でキャリア教育を行なっている。これまで実績のない就職先を優先に内定先訪問をキャリアセンターが主となり実施。新卒1年目を対象に離職調査を兼ねて就業状況アンケートを実施している。また、実習中の巡回指導の際には卒業生の状況についてもヒアリングをしている。	特になし	特になし		
	3-9-4 授業評価を実施しているか	3	前期・後期の各1回ずつ、学生による授業アンケートを実施している。  年2回の講師面談にて、授業アンケートの内容をフィードバックしている。	特になし	特になし		
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3	評価基準は学則で定めており、学生便覧に記載し学生への説明を行っている。講師会議で成績評価(GPA評価)に関する研修を実施している。  定期試験と小テストの運用で、日々の学習が成果に繋がるしくみとしている。  進級卒業判定会議にて成績評価について認定している。	特になし	特になし		
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	3	分野特性で対外的なコンテスト等はないが、『地域連携教育報告会』として各学科の地域連携の取り組みを発表している。(教育課程編成委員にもお越しいただいた)	特になし	特になし		
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	3	取得目標資格は学生便覧に記載しており、また資格取得に向けて対策授業も行っている。WEBでの国家試験対策も行っている。	特になし	特になし		
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	3	国家試験不合格者への卒業後の支援は無料(授業料)で行い、国家試験対策への参加を促している。	特になし	特になし		

3 教育活動	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	講師契約は毎年更新し、そのたびに履歴書、資格取得の免許写し、実務経歴書も確認している。 教員の採用計画も事業計画に記載しており計画的な人事採用を行っている。 教員の資格・実務経験などもシラバスに記載している。埼玉県への届出により年齢や男女など構成を明示している。  昇格措置等については、学園人事部より規定があり、明示している。 授業時間数は業務委託契約書に記載し、学生数についても講師会議等にて共有・把握している。	特になし	特になし	
	3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	3	常勤職員については学園の研修、外部研修を通じて資質の向上に努めている。 また、講師向け研修会を実施している。 学園グループの教育研究・研修期間(JESC)にて教育学会を開催し教職員の教育活動を支援している。	特になし	特になし	
	3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	3	教務部長、学科長を中心に教員集団の資質向上に努めている。 役割一覧にて教育の責任は明確になっている。 FD(教務)研修の開催。 担任を中心に非常勤講師との情報共有を頻繁に実施している。	非常勤講師と情報共有・連携について講師個人によって差があるため、更に密にコミュニケーションを取る必要がある。	講師会議・科目連絡会の複数回実施。	
4 学修成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	3	就職者率、内定率は目標設定している。学生の活動状況は就職システム(業務システム)で随時更新し情報共有している。就職行事も年間を通じて行っており、データも一元管理している。  就職セミナーは全学科で行い施設の概要だけでなく、就職してからのキャリアアップについての理解が進むような内容を提供するようになっている。  分野ごとの新しい就職情報や傾向をキャッチするとともに現在の学生の就職意識や特徴などを伝えるなど情報交換を行っている。	国家試験の準備に多くの時間を必要とする言語聴覚士科、言語聴覚士科Ⅱ部の国家試験に不合格となった学生の支援。	年間のフローを再構築し、国家試験が不合格となる事が見込まれる学生と面談をおこない、国家試験前、国家試験後の就職活動の動きを明確に共有する仕組みを構築する。	3.0
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	3	資格ごとに合格率目標を事業計画で定めており、全国平均との比較をし、日々精査している。  学園グループ内の国家試験対策研修会に参加し、国家試験対策授業、模擬試験、教科書教材等の見直しを図っている。	言語聴覚士科屋間部では1期生において初の国家試験となったが目標合格率まで伸びなかった。	学科・クラス全体の目標点数の引き上げ 低得点者別対策授業の実施 言語聴覚士科屋間部の国家試験対策の再構築	
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	3	卒後1年の離職調査を行い、業務システムに情報集約している。 「卒業生インタビュー」を学校HPに掲載。卒業生の活躍から福祉の魅力を発信している。	卒業生は当時の職員を通じてのつながりが基本の為、卒業生の動向がわからない世代がある。(現在の職員とのかかわりが薄い世代)	同窓会でのネットワーク再構築が必要となる。その第1歩として、第1期生に絞った同窓会を実施し、学校関係者との関係を構築した。	
5 学生支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	3	キャリアセンターと卒業学年担任とは対面の情報交換だけでなく、ITツールを使用し、学生の疑問や不安に対して迅速な対応をしている。 また、全体会などを通じて学校全職員にも就職活動状況を共有している。 全ての学生に、就職対策の授業を実施し、業界関係者からの説明と就職活動に必要なノウハウを知ってもらう取り組みを行っている。	国家試験の受験が必須の学科については、追込み時期前までに、全員が就職内定を持っている環境を構築していきたいと考えている。そのためにも、効果的で効率の良い就職支援の実施が必要。	就職活動に必要な知識を学ぶための授業と業界を知る【就職ガイダンス】を全学科で実施しているが、より学生が関心を持っている内容にブラッシュアップする事が必要と捉えている。	学生を支援する姿勢に学校の学生に対する愛情を感じる。
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	3	退学数は開講以来数字で集約、分析している。 また学生相談室を設置し連携している。  年1回のキャリアサポートアンケートにて個人の状況を把握し学生サポートに活かす。合理的配慮の実施や研修を実施して一人ひとりの課題に対応している。	16名の退学者のうち、14名が1年生であり、内11名が保育士科であった。学生対応について体制を見直す必要がある。  学科により理由は分かれる傾向にある。クラス内の人間関係や授業内容に起因した資格取得にモチベーションの低下もあるが、精神的な疾患による学生が16名中7名と4割以上を占める。	問題発生後に早期対応と継続支援するため、『チーム担任制』とし、複数の教職員で学生をフォローする。  状況を業務システムに記録し、関係者で確認。  休学者対応は担当を明確にし、月1回以上の面談を通じて目的意識喪失を防ぐ。	
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	3	専任カウンセラー1名と非常勤カウンセラー2名を配置している。 またJTSC(滋慶トータルサポートセンター)とも連携し、様々なケースに対応している。 年度当初、新入生・在校生問わず、JTSCの案内を行なっている。 カウンセリングについては記録を保存している。 卒業生の相談については、元担任が窓口となり、キャリアセンター職員につなぎ、対応している。	精神疾患の相談件数が増加しており、医療機関との連携が必要なケースもある。その際保護者の理解が得られないケースの関わりが難しい。 また、カウンセリングの継続動機付けが難しい。	非常勤講師、医療機関と連携を組み、対応策を検討していく。 また、カウンセリング継続動機付け方法を検討していく。	
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	3	留学生窓口として教職員を配置。学習、学生生活、私生活等での問題解決を行なっている。  留学生を支援する企業・業界とも連携し、学校生活や学習に関するサポートを行っている。 留学生限定の国家試験対策も実施している。	国家試験対策、職場の受け入れ態勢整備。  介護福祉士科において、日本語学校から講師を派遣し、日本語について特別授業を開講しているが、N2合格する学生は半数程。	留学生支援担当者を設定。  日本語授業内容の再検討、追加検討。  国家試験については、介護福祉士科教員にて留学生限定の対策授業を構築	

5 学 生 支 援	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	3	日本学生支援機構の奨学金利用者は増えており、学生サービスセンターが手続、返還案内等行っている。また保護者への説明として保護者会を実施している。家庭での支援が充実するよう保護者との面談を強化している。	生活保護世帯や児童養護出身者など、家庭での支援が望めない学生、経済的困難者に対して個別に対応しているが、制度として整えていく必要がある。	
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	3	保健室の専門職員は居ないが、看護師、介護福祉士の有資格者がおり、対応している。健康診断も毎年実施している。相談室では精神的な相談を受け付けている。定期健康診断は毎年実施し、記録は保存している。感染症対策については引き続き徹底している。SSC(学生相談室)と連携し、心身の健康相談を実施している。	2次検診対象者の受診率が100%にならない。	該当者の共有を実施。担任からの受診促進。
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	3	学校運営の寮はないが、提携寮が男女それぞれ2つある。実際には埼玉県外からの入学は少なく、寮の利用も多くはない。	特になし	特になし
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	2	SCWKワイヤーは高齢者施設や地域行事等で公演を年10回程度行っていたが、2020~2022年度はコロナ禍で実施できていない。	2023年度については新たにSCWKワイヤーの募集を行い、再始動に向けて準備をしている。	特になし
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	3	「一人ひとりを大切に」をキーワードに、入学前は保護者会、入学後は保護者への連絡や個別面談などを適宜実施している。学科・担任により保護者への連絡のタイミングが異なるが、小さな問題でも保護者と共有し、協力体制を早期構築する。	協力が得られない家庭への対応(連絡がつかない保護者、子供にまかせっきりの保護者)が難しい。	カウンセラー含め学科職員で共有して学校の出来ることを探りながら対応する。
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	3	同窓生主催の同窓会を開催している。キャリアに合わせた分科会や相談会をオンラインと対面の両方で実施している。また、その状況をホームページ等でも広報している。今年度は、1期生を対象とした同窓会を行い、業界幹部の方々のニーズを把握することができた。	卒業生のキャリア段階に合わせた卒業教育としての同窓会の開催。集合型同窓会の限界。同窓会参加率が、20%台の学科が多く、実施のための枠組み作りが必要と考える。	Zoom(ウェビナー)やLINE等のSNSを活用したオンラインでの実施 卒業生が現在求めている情報の集約の強化。
	5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取組んでいるか	3	同窓会において、学生の気質や思考についての理解を深めてもらい、効果的な求人活動ができるようになるためのセミナーを行った。	同窓会の集客の強化。	LINEやホームページなどITを使った集客の強化。
	5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3	社会人入学者は毎年3割程度いる。コロナ禍の不況もあり、社会人学科である社会福祉士養成科は例年より多く学生が入学している。ICT環境が学生にとって、かえって不利とならないように、事前アンケートの実施をもとに整備した上で迎えている。社会人経験者が多い社会福祉士養成科において、授業前に学習や就職相談ができる『サポートタイム』を設け、個別対応している。	就職においては単に分野の適性にとどまらず年齢・家庭状況・職務経歴を前提とした支援を要する。	様々な年齢に対応した新規求人の開拓

3.0

6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3	指定規則と同等またはそれ以上の設備、備品を整えている。設備については点検、整備含め関連会社が行っており計画的に改修もを行っている。 老朽化した壁紙やエントランス部分については2022年度末に修繕を行なった。 卒業生対象に図書室の開放と貸し出しを行っている。 滋慶スペースによる施設・設備等の保守、入れ替え等の10年計画を立案。その計画に基づいた予算を事業計画に盛り込み実行。	特になし	特になし	3.0	モニターが教室によっては小さいところもあり、スマートフォンを使っても文字が小さい資料があると娘が言っていた。  地域の防災拠点として機能するという姿勢がある。
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	実習については、学科 ごとに実習要綱を作成している。例年行う実習指導者懇談会はコロナ禍の感染リスクもあり中止または、形式を変えて実施。 また巡回指導でも実習指導者と連携を図り学生を指導支援している。 実習評価については学内・学外での評価にて算出することを学生に伝えている。  地域連携の学内実習を屋間部の各科にて学生が主体となって運営している。 介護:オレンジカフェ 保育:エンゼルキッズ 言語:ことばの教室	特になし	特になし		
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3	埼玉ベルエポック製菓調理専門学校と連携して防災訓練を実施している。施設の耐震化などは関連会社に管理してもらい適正である。 非常時には2校のインカム(トランシーバー)で連絡を取りながら対応できるようになっている。 防災訓練については、教職員・学生共に毎年実施している。	特になし	特になし		
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3	防災マニュアルは学園として規定している。また携帯用の防災マニュアルも全学生に持たせて危機管理を行っている。 非常時持ち出し用の名簿も職員室内に置いてある。 学科の特性上、危険物などはほとんどないが、水銀温度計・血圧計については定期的に確認している。 外部実習の安全管理についても実習前・巡回時に実習指導者と情報共有をし、安全管理に努めている。	特になし	特になし		
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	3	埼玉県専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいて募集活動を行っている。募集目的のみならず福祉、保育・医療職の正しい理解を得るための高校訪問、説明会も参加している。	介護分野への高等学校教員の正しい理解が得られない。(介護は3Kの仕事のような認識) 業界や職業理解をいただけるようなツールや案内が必要	高校訪問や出張授業を中心に福祉・保育・医療分野の正確な情報提供を実施。 また、教育委員会や校長会をも巻き込んだ福祉・保育・医療分野の仕事説明会を関連団体や県の所管と連携し実現をめざしたい。	3.0	熱意をもって学生募集に取り組んでいる。 毎年、学科の内容を再検討し、新しい取り組みをしていると感じる。  『自己発見』、『キャリア形成』、『0学年』という視点はとても参考になった。組織としても取り入れたい。
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	3	上記同様、ルールに沿った募集を行っている。 卒業生の活躍を学校案内等に掲載し、就職分野や進路先の理解、教育を中心とする学校の理解が得られるように工夫をしている。  個人情報保護法に基づき、広報活動で得た情報は、適切に案内と管理している	入学定員を最終入学目標に掲げているが、すべての学科で定員を満たしていない。 外部要因のみならず、自校、自学科の特徴を明確にし、顧客に合わせた募集活動を行うことが必要。 顧客や業界のニーズにあわせた学科のイノベーションを検討する。	自校、自学科の特徴をエビデンスで明確にし、顧客に合わせた募集活動ができるよう研修の実施。また、顧客の価値を明確にし、顧客に合わせた情報提供ができるよう随時研修を行い、スタッフ一人ひとりのカウンセリング能力を高めていく。 本校の教育内容など、SNSを通じて配信し、見える化していく。 業界や顧客の需要にあわせたイノベーション会議の実施。		
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	3	入学選考に関しては、基準を募集要項に明示し、決められた規程にて実施している。入学選考は、学校長・事務局長・教務部長・学科長・広報センター、学生サービスセンター、キャリアセンターにより構成される、「選考会議」にて基準に基づいて合否判定を行なっている。	特になし	特になし		
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	3	年度末に学校・学科の数字分析を行い、適切に管理をおこなっている。 入学者の個別データを基に入学生の状況を知り、入学前教育の内容などを検討している。オープンキャンパスに参加した人数を基に入学者の予測数字を作成している。 事業計画にて財務数字を作成している。	入学辞退者の発生。 入学前教育の内容を学科ごとに見直し、徹底して実施できていない	入学前のモチベーションを保つための入学前教育時期と内容の変更と、共有事項の徹底を図る。		
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3	入学初年度のみならず、卒業までにかかる学費諸費用について募集要項に明示している。また諸費用算定にあたっては、事前に見積もりをとり、それに基づいた徴収額を学内で決定している。	特になし	特になし		
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	3	入学前の3月末までの申し入れに対して学費返金は明示し、実際に返金している。	特になし	特になし		

8	財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	5か年の中長期事業計画で収支計算を行っている。またその予算執行状況を四半期ごとにチェックし修正しながら適切な予算運用をしている。設備投資についても財務状況を見ながら5か年計画を立てている。	定員充足はしていない。	廃科、定員変更、新学科の設立など、イノベーションを実施。	2.8	学校の対応は適切である。
		8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	3	関連会社による財務の監査、分析を行い適正な運営をしている。またその連携によって学校としても予算執行を管理している。	特になし	特になし		
		8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3	学科の変更などに伴う募集の費用や設備投資など5か年で計画を立て運用している	特になし	特になし		
		8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	3	「予算=決算」を目標に関連会社とも連携し透明性の高い予算執行を行っている。学園内監査も行い、適正に運用されているかチェックを受けている。	特になし	特になし		
		8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	3	会計監査は学校の利害関係者に対して法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために第三者による監査人(公認会計士及び監事)が監査を実施し、監査報告書の作成、理事会及び評議員会で報告している。	特になし	特になし		
		8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	3	情報公開規定、情報公開マニュアルを整備しており、それに基づいてホームページでも情報開示している。	特になし	特になし		
9	法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3	総務センター、コンプライアンス委員会、個人情報保護委員会を設置し、法令遵守に努めている。学園本部にはハラスメントの相談窓口がある。学生にはソーシャルメディアの適正な使用方法を含めコンプライアンスに関する教育を行っている。	特になし	特になし	3.0	法令順守の仕組みがシステムとして構築されている。
		9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3	就業規則に個人情報の取り扱いに関する規定も設け、全職員に対して個人情報保護の研修を実施している。学生についても現場実習における個人情報保護の授業を実施している。	特になし	特になし		
		9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	自己点検自己評価委員会を設け、年に1度点検会議を実施している。またその結果を学校関係者評価委員会で報告し意見をもらい改善している。	特になし	特になし		
		9-34-2 自己評価結果を公表しているか	3	ホームページで学校評価、財務状況、監査結果など公表している。	特になし	特になし		
		9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	3	学則や規定は毎年見直し修正のある場合は届出を出している。教育課程編成委員会は2年ごとに任期を設け適切な方に評価していただいている。	特になし	特になし		
		9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	3	ホームページで公表している。	特になし	特になし		
		9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3	ホームページ上で学校情報の公開、さらにSNSで教育活動を公開している。	特になし	特になし		

10 社会 貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	<p>精神保健福祉協会や自治会の会合場所として教室を提供している。 地域清掃、パトロールに職員、学生で積極的に参加している。</p> <p>さいたま市私立保育園協会との産学連携でさいたま市と市内の特徴ある保育を学生が学び、魅力を発信する課題解決型プログラムを組んでいる。</p> <p>近隣高校の学生を招き、職種理解を目的として授業を実施し協力体制を構築している。(介護福祉士)</p> <p>地域・社会問題の解消と職業観を高めるために、各学科において、オレンジカフェ・エンゼルキッズ・ことばの教室を実施し、社会問題に対する問題意識を高める機会を設けている。</p> <p>さいたま市こども大学との連携。</p>	<p>各種団体と連携した教育についてはより一層質の向上を目指していく必要がある。</p>	<p>キャリアセンターと連携し、連携先を開拓していく。</p>	3.0	<p>埼玉福祉のおかげで仲町3丁目の地域には若々しい生徒さん行き来するようになり、活気に満ちた感じがする。 また、自治会が行う清掃活動や敬老会、運動会などに多くのご協力をいただき、感謝している。 ともすれば、お年寄りが多く、停滞・後退がちになる自治会価値共に活気が出てきたことは否定できない。</p> <p>学校の存在そのものが地域を文教地区として保存する機能を果たしている。</p> <p>引き続き、地域のm名様との連携を大切にしたい。</p>
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	3	<p>国際教育は建学の理念の一つでもあり、海外研修、国内で行う国際講座など実施している。(2022年度も新型コロナウイルス感染症対策の為、縮小延期等を行った)</p> <p>コロナ禍のため、国内研修として、北欧(スウェーデン)に関するゲストを呼び、国際的な感覚を高める体験を実施した。</p> <p>米国絵本作家による国際的な多様性に関する授業を実施した。</p> <p>2022年度留学生受け入れ人数は5名となった。日本語学校とも連携し、日本語トレーニングの授業も実施している。</p>	<p>留学生の受け入れについては体制含め今後整えていく。</p> <p>コロナ禍のため、海外研修に赴くことはできていない。</p>	<p>留学生を支援する企業・業界・日本語学校との連携をすることで、学生生活・学習についてのフォローを計画的に実施し、定期的に確認を行う。 留学生受け入れ実績校との連携を通じて外国人教育を構築していく。</p>		
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3	<p>学科掲示板にて学生の参加を積極的に促している。(2022年度は新型コロナウイルス感染症対策の為、縮小延期等を行った)</p>	<p>コロナ禍のため、ボランティア活動は積極的ではなかった</p>	<p>ボランティアへの協力については学科問わず、告知・実施していく。□</p>		